

【子ども臨床特別研究】到達目標・成績評価基準

特別研究で達成すべき DP

A-2【専門分野の諸問題を解決できる研究能力と情報発信能力】

子ども学に関わる研究テーマについて、研究法の基礎を学び、研究計画を作成し、研究を遂行し、研究論文（修士論文）を執筆し、研究発表を行う、一連の知識・技能・態度を学修する。

到達目標及び観点

No.	到達目標	知識・理解	技能・表現	思考・判断	伝達・コミュニケーション	協働
1	研究計画作成の方法について理解し、説明できる (A-2)	○	○	○	○	○
2	研究計画作成の方法について理解し、説明できる (A-2)	○	○	○		○
3	データ分析の方法について理解し、説明できる (A-2)	○	○	○		○
4	論文作成の方法について理解し、説明できる (A-2)	○	○	○	○	○
5	研究発表の方法について理解し、説明できる (A-2)	○	○	○	○	○

成績評価方法と基準

No.	到達目標	定期試験	論文	研究発表	学習態度
1	研究計画作成の方法について理解し、説明できる (A-2)		○		○
2	研究計画作成の方法について理解し、説明できる (A-2)		○		○
3	データ分析の方法について理解し、説明できる (A-2)		○		○
4	論文作成の方法について理解し、説明できる (A-2)		○		○
5	研究発表の方法について理解し、説明できる (A-2)		○	○	○
評価割合 (%)			60	10	30

【子ども臨床特別研究】評価ルーブリック

評価項目	観点	A (25点)	B (20点)	C (15点)	D (1つでもあてはまれば不合格)
研究計画作成の方法を修得できる (A-2)	計画・準備	指導教員との協議を通して計画書を作成し、研究レビュー、データ収集、分析、執筆など具体的な活動をいつ実施するか明確に示されている。	指導教員との協議を通して計画書を作成し、研究レビュー、データ収集、分析、執筆など具体的な活動をいつ実施するかほぼ明確に示されている。	指導教員との協議を通して計画書を作成し、研究レビュー、データ収集、分析、執筆など具体的な活動をいつ実施するか不明確である。	いつ何をどこまで進めるか計画が立てられていない。
	オリジナリティ	関連する先行研究を網羅した上で、当該論文のテーマが独創的であることが明確に示されている。	関連する先行研究に当該論文と類似するテーマがないわけではないが、独自性を有すると認められる。	すでにほぼ同様のテーマの先行研究があるが、独自性を有するとも言える。	すでに同様のテーマの先行研究が存在しており、独自性は認められない。
データ収集の方法を修得できる (A-2)	データ収集	研究目的を達成するために選択した研究方法、分析方法を実施するのに十分適合する量のデータ・資料が収集されている。	研究目的を達成するために選択した研究方法、分析方法を実施するのに必要な量のデータ・資料が収集されている。	研究目的を達成するために選択した研究方法、分析方法を実施するのに十分な量とはいいづらい。	収集した量のデータ・資料では、選択した研究方法、分析方法を実施できない。
データ解析の方法を修得できる。 (A-2)	分析方法	研究目的を達成するために選択した研究方法にふさわしい分析方法が行われており、当該分野	研究目的を達成するために選択した研究方法にふさわしい分析方法が行われており、当該分野における一定の水準に到達し	分析方法は、おおよそ研究方法にそったものであるが、一定の水準に到達していないところがある、	分析方法の選択が間違っている、あるいは、一定水準に到達していない。

		における水準を十分越えている。	ている。	あるいは、さらに適当な分析方法が考えられる。	
論文作成の方法を修得できる。 (A-2)	記述方法・ルール	論文の本文は学術的な記述法で書かれ、学位論文作成要領に従って書かれている。 指導教員の指示に従い、当該分野の学会で一般的に利用されている執筆規定に従って書かれている。	論文の本文は学術的な記述法で書かれ、学位論文作成要領にもほぼ従って書かれている。 指導教員の指示に従い、当該分野の学会で一般的に利用されている執筆規定にもほぼ従って書かれている。	論文の本文は学術的な記述法で書かれたというには不十分であり、学位論文作成要領に従っていない部分がある。 当該分野の学会で一般的に利用されている執筆規定に従っていない部分がある。	論文の本文は学術的な記述法で書かれておらず、学位論文作成要領にも従っていない。
	結果の記述	結果を適切に表現するために、適切な図表等が作成・配置されている。	結果を適切に表現するために必要な図表等がおおよそ作成されており、ほぼ問題なく配置されている。	結果を表現するために必要な図表等が用いられているが、 unnecessaryなものや冗長なものがあったり、図表がないために理解しにくい箇所がある。	結果を表現するために必要な図表等がほとんど作成されていない。
	結果の解釈・まとめ	参考資料や得られたデータに基づいて客観的で公平な解釈をおこなっている。 予想や仮設に一致しない結果も重要な結果として捉えている。	参考資料や得られたデータに基づいて客観的で公平な解釈をおこなっている。 予想や仮設に一致しない結果は例外として処理している。	結果の解釈そのものに歪曲はないが、一部に予想や仮設に一致した点だけを結果として捉えている箇所がある。	予想や仮設に一致する結果だけを報告している、あるいは結果の解釈に一部歪曲が認められる。

<p>研究発表の方法を修得できる。 (A-2)</p>	<p>プレゼンテーション全体をとおり一貫したトーン梨構成と展開で話しているか。</p>	<p>結論に至るまでのプロセスが、基本型（序論、本論、結論）に沿った順序で明確に話しており、論理的に一貫した内容で説得力がある。</p>	<p>結論に至るまでのプロセスが、基本型を用いて構成しており、論理的に一貫した内容で理解しやすい。</p>	<p>結論に至るまでのプロセスが、基本型を用いて構成しているが、論理的なつながりに改善すべき点がある。</p>	<p>結論に至るまでのプロセスが、構成・展開の型と論理性に改善すべき点がある。</p>
	<p>視覚的な情報（図表、イラスト等）を効果的に使用しているか。</p>	<p>視覚的な情報や資料を効果的に扱っており、伝えたい内容を明確にわかりやすく提示している。</p>	<p>視覚的な情報や資料を効果的に扱っており、伝えたい内容を提示している。</p>	<p>視覚的な情報や資料を一部必要に応じて扱っている。</p>	<p>視覚的な情報や資料を効果的でない形で扱っている。</p>